

第4回 国際フォーラム 『被災地からのメッセージ』

～食べて、歌って、話し合う、ひろのいろいろ会議～



呈茶席
(12日 公民館)



オープニングセッション エジプト発掘の魅力
(12日 公民館)



わかりやすい鳥獣被害対策
～野生鳥獣の生態と被害対策～
(12日 公民館)



廃炉について語り合う
(12日 公民館)



広野町の放射線情報
(12日 公民館)



広野町映像作品放映
(12日 公民館)



浜通りの魅力とサイクリング観光
(13日 公民館)



恐竜化石展
(常設 公民館)



食品販売
(13日 公民館)



童謡のまち広野～童謡心の復興～
(13日 公民館)



クロージングで『被災地・広野町』からのメッセージを発表

10月12日(木)から15日(日)にかけて、～食べて、歌って、話し合う、ひろのいろいろ会議～と銘打ち、第4回となる国際フォーラム「被災地からのメッセージ」を開催しました。

開催に際しては、平成28年11月に発信した国際フォーラム「被災地から考える」のメッセージを受け、地域間連携による課題の解決、被災地からの情報発信という観点はそのままに、新たに地域の魅力の再発見を主題として、他市町村・関係団体・学校機関を巻き込んだ話し合いを行いました。

期間中のセッションでは、広く双葉地域や福島県を視野に置きつつ、広野町における将来展望を町民の皆様を交えて議論しました。

オープニングでは福島復興局長 横山忠弘様、原子力災害現地対策本部副部長 須藤治様、相双地方振興局長 佐々木秀三様、双葉地方町村会長 松本幸英様をはじめ、多くの方々にご臨席いただきました。

クロージングでは、現地対策本部 須藤治様、福島県教育委員会教育長 鈴木淳一様、福島県立ふたば未

来学園高等学校学長 丹野純一様のご臨席をいただきました。

皆さんの様々なご協力・ご参加を頂き、誠にありがとうございました。

フォーラムの開催を通して、地域に根差す“童謡”“Jヴィレッジ”といった地域の資源の価値を再発見できたほか、ふたば未来学園生徒をはじめとする地域の子供たちの取り組みを、広く発信することができました。

今後は、地域間での情報共有や広域連携を深めていくほか、被災地の現状を継続して伝えるために、「被災地からのメッセージ」を今後も発信し続けていきます。

当フォーラムの詳しい内容については、今後報告書を作成するとともに、町ホームページへの掲載をいたします。

主催：広野町
共催：学校法人昌平賢 東日本国際大学/学校法人 熊本学園大学/東京大学アイソトープ総合センター/株式会社 Jヴィレッジ/檜葉町/葛尾村
後援：復興庁 福島復興局/福島県/国立大学法人 福島大学/一般社団法人 日本童謡協会